

タイトル：2021年度 教育セミナー（第17回）

日時：2021年9月16日（木）～19日（日）

オンライン開催

「16世紀後半のイスタンブール・ウスキュダル地区のシャリーア法廷台帳にみられる奴隷の特色」

河合 早由里（東京外国語大学大学院総合国際学研究所）

今回、中東☆イスラーム教育セミナーで発表するという大変貴重な機会をいただき、よい経験となった。今回は、例年のような対面での開催とは異なるオンラインでの開催であったため、運営を担当された方々に多くの負担があったことと思う。その中で大変有意義な経験をさせていただき、ありがたく思った。

私は40分の発表時間と30分の質疑応答の時間をいただき、研究発表をさせていただいた。準備不足のため、発表時間が30分で終わってしまったが、その分9人の方から多くのご質問・ご指摘をいただくことができた。いただいたご質問により、発表資料に説明が足りない部分、論旨が不明確であった部分に気づくことができた。また、研究の根幹にかかわるような重要なご指摘もいただき、改めて自分の研究を見直すことができた。

今回はオンラインでの開催ということで、音声途切れたり、機器の不調で接続自体が途切れたりする不都合もあったが、オンラインゆえの利点もあったと思う。

1つは、遠方からの参加者とも交流ができたことである。通常であれば参加が難しいような、海外からの参加者とも交流することができ、留学について話を聞くこともできた。

2つ目としては、自分の発表に集中できたことである。オンライン上での発表であったため、画面に資料を投影してしまえば、聴衆が見えないため、聴衆の反応が気になって気が散ることもなく、落ち着いて発表ができたのではないと思う。ただ、これは私がこのような多くの方に対し研究を発表することが初めてであったため、必要以上に緊張せずすんだということである。

オンラインセミナーでは他の参加者との交流の場を作ることに苦労するというのが通例と思われるが、運営を担当された方のご配慮があり、オンラインであっても、多くの参加者の方と交流することができた。

更に、他の参加者や講師の先生方のご発表・ご講義を聞かせていただき、多くの刺激を得ることができた。自分の研究分野に視野が狭くなりがちであるため、中東やイスラームというテーマに絞っても、このように多くの方が多様な研究を行っていることを知り、大変参考になった。今後の研究に活かしていきたい。

私自身の発表に関しては、準備不足ゆえに、悔いの残る結果となってしまった。しかし、気が緩んでしまいがちな長期休暇において研究発表の機会をいただき、発表に備えることで気を引き締めることができたと感じ、ありがたく思う。

最後になってしまったが、発表をお聞きいただいた参加者の皆様、講師の先生方、運営にご尽力いただいた方々に御礼を申し上げて結びとしたい。誠にありがとうございました。